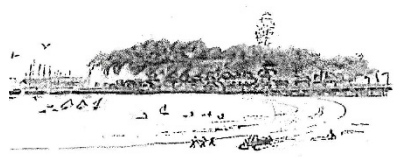


かたせ 自治連だより

2015年8月20日 第７号

発　行　片瀬地区自治連
発行人　畠山　義昭
事務局　片瀬市民センター内
電　話　0466 － 27 － 2711

会長あいさつ

片瀬地区自治町内会連絡協議会
会長　畠山　義昭

昨年、片瀬地区自治町内会連絡協議会総会におきまして、前任の長谷川紀夫会長の後を継ぎ、自治連会長を仰せつかることとなりました。長谷川前会長のこれまでのご尽力に敬意を表しますとともに、謹んでこの任をお受けいたしました。この度、自治連広報誌「自治連だより」を四年ぶりに発刊することとなり、ここに併せてご挨拶申し上げます。

就任後あっという間に過ぎた一年ですが、昨年度は二六全町内会長に宛てアンケートを実施し、各町内会の活動における良いこと、悪いこと等を挙げていただきました。その中から「要支援者問題」「空き家問題」という二つの事例発表を定例会にて行い、片瀬地区全体の問題、また各々の町内会の問題として考えていただく機会といたしました。今後はこの二つの課題及び防災対策などこれまでの懸案事項に関わりつつ、新たな課題を拾い上げ、全町内で共有することにより解決に向けて努めてまいります。

地区には、郷土づくり推進会議のほか種々の団体があり、それぞれの分野での問題に取り組んでいます。その中で自治連は、各地域団体との棲み分けを明確にし、組織のあり方を考えていく必要があります。自治連とはそれぞれの町内の代表からなる組織、という自負を持ち、他の地域団体との連携を強め、地域の課題を共有し、より暮らしやすい片瀬江の島地区にしていきたいと考えております。また本来それが、自治連のあるべき姿と考えます。

二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックでは、江の島がセーリング会場として選ばれました。このことによって地域がより整備され、活性化していくことを期待しながらも、そこに私たち住民の思いもきちんと反映されていくよう努めてまいります。

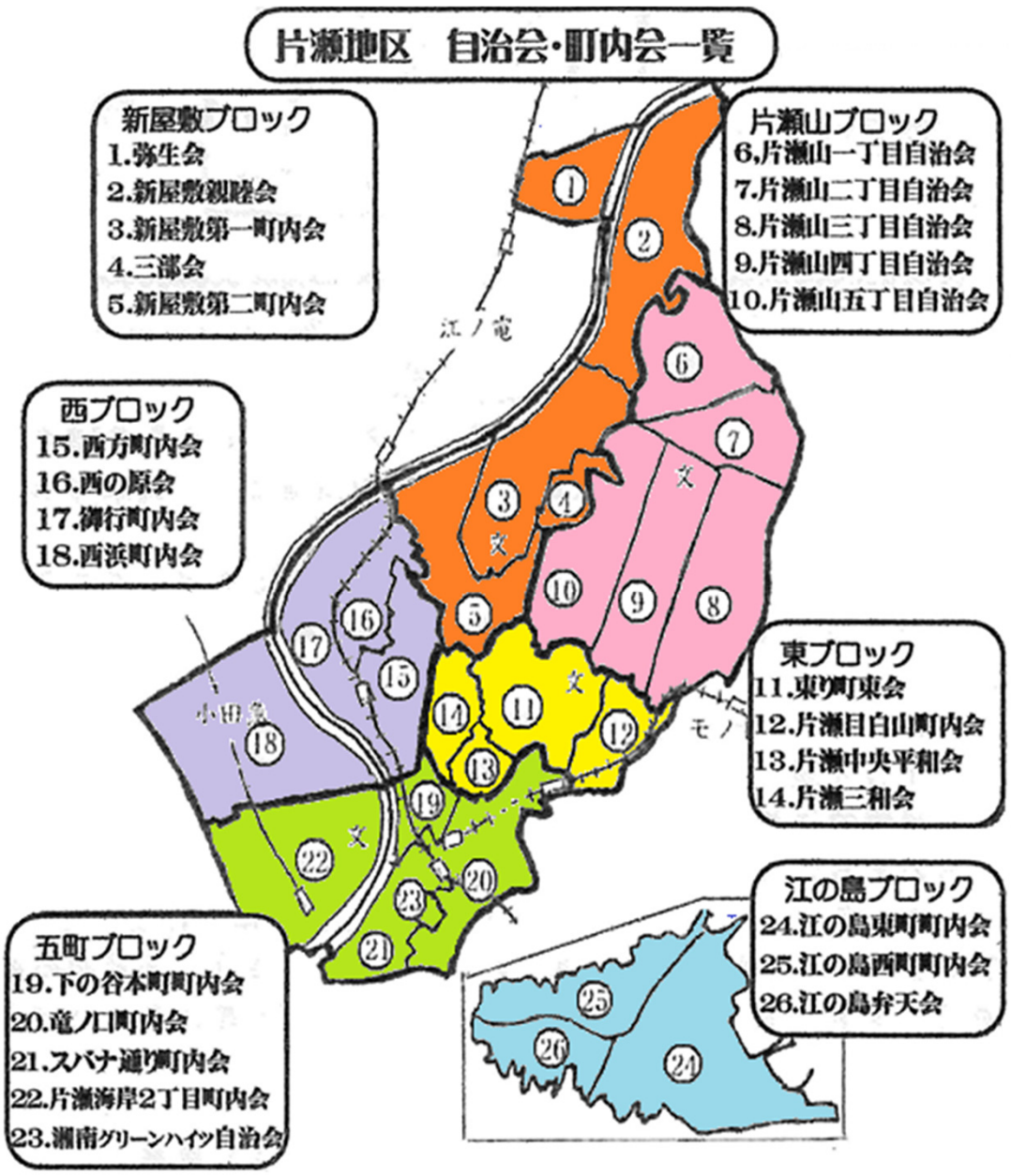
自治会・町内会制度の発足から約七〇年、自治連は二二年が経ちました。会員の皆さまのこれまでのご協力に感謝いたしますとともに、今後はこの「自治連だより」を通して自治町内会の歩みをお伝えしてまいりますので、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

平成二七年度総会報告

五月二二日(金)の総会において、二六年度事業報告及び収支決算、二七年度事業計画及び収支予算が承認されました。

本年度も各自治町内会や各地域団体との連携・協調を図り、地区住民の福祉の向上、安全で住みよい地域づくりをめざして事業を進めてまいります。

また、藤沢市環境総務課より、路上喫煙禁止区域設定について説明がありました。片瀬地区では**平成二八年内**に小田急（片瀬江ノ島）、江ノ電（湘南海岸公園・江の島）、湘南モノレール（目白山下・湘南江の島）の各駅周辺で新たに設定されます。



かたせNOW　「空き家問題」の取り組み

倒壊の危険、道路にはみ出した庭木による通行妨害、住みついた動物が近隣に及ぼす日常生活上の被害・・・と周囲にとって明らかに迷惑な「空き家」。片瀬地区でも「空き家」が増えており、自治連において地域の課題として情報を共有しています。

国の法整備も進み、「空き家」に関する新たな法律「空家等対策の推進に関する特別措置法」が施行されました。この法律では「空き家等の所有者は、周辺の生活環境に悪影響を及ぼさないよう、適切な管理に努める」と規定されています。自治体はこの法律に基づき、これらを「特定空家」に指定することができるようになりました。「特定空家」になると、所有者は改善を指示されたり、土地にかかる固定資産税が特例措置の対象から除外され最大６倍に増額されたりします。

しかしながら、何らかの事情で所有者がその責任を果たせない場合もあります。その時は個別の空き家の状況を把握することができる市町村が、地域活性化等の観点から地域の実情に応じた空き家の有効利用を推進したり、「特定空家」については所要の措置（代執行による解体等）を実施することになります。

県の「居住支援協議会」では、市町村の空き家対策を支援する立場から「空き家対策取り組みＱＡ集」を作成し、空き家の管理、利活用、権利関係の整理に関わる情報提供が始まっています。

藤沢市は、「空き家対策庁内検討委員会」を継続して開催し、空き家等対策計画などの策定や、相談窓口の一本化などに取り組んでいます。

片瀬地区では、自治連において町内会としての取り組み事例を共有するほか、「まちづくり協議会」が地区集会やワークショップを開催し意見交換を行うなどして、空き家問題の解決に向けて取り組んでいるところです。私たちも、ご近所とふれあいながら、「特定空家」となる前に上手に対処していきたいものです。

就任のあいさつ
片瀬市民センター長　松崎正一郎

４月より片瀬市民センターに着任いたしました松崎正一郎と申します。

自治連をはじめ、皆様におかれましては、日頃から地域の発展のためにご尽力をいただき、誠にありがとうございます。

少子高齢化が深刻になる中で、もっとも身近な住民組織のひとつである自治町内会は、地域の連帯感を高め、より安全で住みよいまちをつくっていく重要な役割を担っています。地域の助け合いがますます大切になる中で、地域の課題を踏まえた様々な活動に取り組まれている皆様には、心より敬意を表するとともに、深く感謝を申し上げます。片瀬地区における自治町内会の加入率は、市内で最も高い９７％となっており、こうした結果一つをとりましても、皆様の日頃のご尽力の賜物と考えております。

この度、２０２０年東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技会場が江の島に決まりました。開催に向けた様々な環境整備は、市民生活に少なからず影響を与えていきます。当地での開催を契機に、地域福祉の推進や災害対策、環境保全など、市民生活に身近な地域課題の解決に向け、片瀬・江の島地域として何ができるのか、何をすべきか、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

地域福祉を推進し、より安全で住みよい片瀬・江の島のまちづくりを進めていくためには、行政がその責務をきちんと果たしていくことはもとより、自治連をはじめとする皆様と行政が連携・協力していくことが必要です。そのような場面で、私は少しでも皆様のお役に立てるよう頑張っていく所存ですので、よろしくお願いいたします。

自治会・町内会紹介（7）

⑤新屋敷第二町内会

安心・安全と温もりのある町内会

新屋敷第二町内会は、三六班、約六四〇世帯からなる片瀬地区で二番目に大きい町内会組織になります。

現在国内では少子高齢化、自然災害の多発が大きな課題となっています。我が町内会にも同じ悩みがあり、いざという時、町内会の組織力が生かせればという思いをもって、役員・班長が一丸となって活動しています。これを実現するため、平素の町内会活動に加え、次の施策を重点に活動を進めています。

具体的には【少子・高齢化への対応】で、敬老祝いの継続実施の他、小学校新入学児童・新生児誕生祝い制度を新設し、平成二六年度から事業化しました。これは、会長自らがお祝いメッセージを添えて一人ひとりにお祝いを手渡しするものです。その際は会話も弾み、慶びの気持が伝わる施策と考えています。

次に【ご近所との交流を深める】ことです。

片瀬西浜での地引網大会

今年度は、地引網大会とボーリング大会を町内会二大行事として準備を進めています。毎年度、住民参画型コミュニケーションの場を設け、楽しみながらご近所同士、老若同士の繋がりが増すよう、そしてその輪が広がるように内容を工夫し、活動を続けることが大切と考えています。

更に、活動基盤となる【情報共有】のための施策です。生活様式の多様化に伴い、行政・町内会の動きと情報を各世帯まで伝えることが難しい状況になっています。従来の活動に加え、町内会ニュース発行や町内会ホームページ等複数手段で情報を伝え、共有することも大切であり、二六年度はニュース発行回数を大幅に増やし、今年度は更に、町内会ホームページを充実し、その利便性や迅速性を広め、情報共有を図るつもりです。

私達は一方通行のコミュニケーションだけでなく、住民の思いを汲みながら、防災・防犯・交通安全・環境衛生の各分野で「生きた活動」を合言葉に活動していきます。

力を合せて網を引くほどに”絆”が深まります

【編集後記】
久しぶりの自治連だより、いかがでしたでしょうか？二〇〇八年、当時の自治連会長故中村氏の下で第一号を発行。ブランクがありましたが、やはり自治連ならではのお伝えすべきことがある、ということで再開に至りました。今後は年一回発行予定です。読みやすく皆さまに親しんでいただける紙面を目指します。

【編集委員】
青木　美和子（片瀬山）
甘粕　克巳（西）
岡田　昇（新屋敷）
鈴木　みどり（新屋敷）
野村　和夫（東）
畠山　義昭（江の島）
福島　規恵（五町）
若林　直美（東）
渡辺　武（五町）

片瀬地区 自治会・町内会長一覧

私たちと共により良い片瀬地区を作っていきましょう